

## 第5学年 学級活動（1）指導案

### 1 活動題「自然教室パワーアップ大作戦」

議題「自然教室パワーアッププロジェクトをよりよくしよう」

### 2 活動題設定までの経過

- 11月に実施する自然教室は、校外における集団生活を通して、児童相互の触れ合いを深め、互いを思いやり、共に協力して集団生活をしようとする態度を育てることを目的としている。この自然教室のような集団宿泊の行事は子どもたちにとって初めての経験であり、大きな楽しみであるとともに、不安や悩みを感じていることもあると考えられる。そこで、活動題「自然教室パワーアップ大作戦」を設定し、学級活動（2）「楽しい自然教室に向けて」を実施した。また、学級活動（2）「楽しい自然教室に向けて」を実施後、さらに楽しい自然教室にすることを目指して、議題「自然教室パワーアッププロジェクトをよりよくしよう」を設定することにした。

活動にあたってはまず、自然教室における係ごとにチームを作り、情報収集活動を行うことにした。その活動の中で、去年の経験者である6年生や引率教師に尋ねたりすることを通して、自然教室への期待をさらに高め、不安を少しでも解消したいと考えている。また、自然教室をパワーアップさせるためのプロジェクトについての意識も高めていきたい。

本時は、議題を「自然教室パワーアッププロジェクトをよりよくしよう」と設定し、話し合う。ここでは主に、プロジェクト内容をよりよいものにするためにアドバイスをしあうようにする。この時見直したプロジェクトを自然教室で実践することで、クラスの団結力が高まり、自分自身の成長や価値にも気づき、自信を深めることができるようになることを期待している。

本活動を通して、本学級の児童が①互いのよさを生かしてともに活動できたことに喜びを感じるができる資質（共感性）と②自分の意思を相手と的確に伝え合うことができる力（コミュニケーション能力）を高めることができると思う。

- 本学級の子どもたちは、これまでに学級会などの話し合い活動を通して、発言する子どもが徐々に増えてはいるが、まだ一部の子どもに発言が偏ることがある。グループで話し合うときにはどの子どもも自分の考えを話すことができている。学級会では個人ノートに事前に自分の意見を書かせることで、発表に意欲的な面も見られるようになってきている。学級会後の自己評価には発言しなかった子どもも「あの時、発表すればよかった」、「次は発言したい」などと感想に書いていた。しかし、話し合い自体は意見の統合や付加・修正という形よりも多数決で話し合いが終わることもある。意見を出す場合、話し合いのめあてを意識した発言も少しずつ見られるようになった。学級会で司会をする子どもたちは、話し合いの流れを示す司会者カードを活用し、打ち合わせやリハーサルを重ねスムーズな進行ができつつある。
- 本学級は「3つのS（Smile, Scrum, Strong）でパワフル」を学級目標として、学校での様々な活動に取り組んでいる。Smileとは明るい、面白い、楽しい、Scrumとは仲間や助け合い、Strongとは粘り強さやあきらめない態度を表している。4月当初に、「こんなクラスにしたい」と目標にする姿を出し合い、話し合っまとめ、学級目標を決めた。1学期に行った学級集会では「むかで競争」に取り組んだ。声を掛け合い心を合わせ活動できたグループとうまくいかなかったグループがあり、課題を残している。2学期最初に行った学級集会では、1学期の反省を生かし、学級会で種目を決め、楽しく盛り上がろうと、一人ひとりが取り組むことができた。役割分担をしてもなか

なか動けない子どももいたが、友だちの取り組んでいる様子を見て、「自分たちにも何かできないか」と考えられるようになってきた。2学期は特に **Scrum** を達成することを子どもたちと確認し、自然教室にむけて自分自身を成長させ、学級目標に近づけるようにと一丸となって取り組むことにしている。

### 3 指導にあたって

#### (1) 事前

本題材の指導にあたっては、まず、自然教室に対する期待感や不安についてどのように感じているのか実態を把握するためにアンケートを実施した。また、施設の写真や昨年のビデオを見せ、自然教室のイメージを持たせ、期待感をさらに高めさせたところで、学級活動(2)「楽しい自然教室に向けて」を行い、アンケートの楽しみにしていることや不安に思っていることを全体に知らせ、共有化を図った。特に不安や悩みを全体の問題と捉え、自分のよさを生かし友達の不安を解消させたい、自然教室で友達と共に自分を成長(パワーアップ)させたいという願いや思いを実現させるために、自然教室でのクラスのめあてを決め、どのようなことができるか考えさせた。計画委員の呼びかけにより、自然教室の役割ごとにチームを組み、自然教室で実行していく方法(プロジェクト)について考えるようにした。その際、実行内容の手がかりをつかむために6年生や兄弟、先生などに必要なことをインタビューした。そして、得た情報をふまえて自分たちが考えた方法を〇〇プロジェクトとし、原案を考えさせた。プロジェクトの視点は目的・場面・具体的な方法・予想される効果に絞っておく。原案は疑似体験をさせるなどしてプロジェクト内容が本当に実行できるものか確かめさせ、完成させるようにした。計画委員は本活動の議題である「自然教室パワーアッププロジェクトをよりよくしよう」の内容を知らせ、プロジェクトがクラス全員のためであるため学級会でよりよいプロジェクトになるよう話し合うことを伝える。プロジェクトの提案は創意工夫を生かして提案するように助言する。計画委員が作った原案に対し、自分の考えを個人ノートに書き込ませておく。

計画委員会(司会グループ)は、話合いの進め方や記録の取り方などを打ち合わせておく。

#### (2) 事中

各係(リーダー・副リーダー・食事・レクリエーション・保健)は具体物や実演をしながら係ごとのプロジェクトの内容を発表する。提案タイムでは、分からないことや思いついた自分の考えをノートにメモを取りながら聞くようにさせる。質問タイム、交流タイムでは、それぞれのプロジェクトがより一層よいものになるように意見を出し合う。交流タイムでは友達の意見をつないで話合いができるよう、話形を用意しておく。整理タイムでは、友達の意見をもとによりよいプロジェクトになるよう見直しを行い、プロジェクトを決定させたい。

#### (3) 事後

決まったプロジェクトに対し、係ごとで細かい役割分担などをする。そして、自然教室でどのようなふり返りをすればいいかを考え、ワークシートを作り、しおりにはさみ込ませるようにする。

自然教室では、毎晩、一日のふり返りと共に、プロジェクトのふり返りも行うようにさせる。ふり返りは自分だけであるのではなく、友だちにも自分の活動を尋ねるなどして客観的な意見も求めるようにさせる。

自然教室後に、各プロジェクトの成果の報告を行い、自然教室のクラスのめあての成果と学級目標の達成の成果について話合い、今後の活動に生かしていくようにする。

#### 4 目標

- 話し合いに向けて自分の考えを明らかにし、めあてや計画に沿って、友達と協力しながら、活動を実践していこうとしている。 (関心・意欲・態度)
- 学級生活を向上させる内容を考え、友達の考えを聞きながらよりよいものにつくりあげることができる。 (思考・判断)
- 自分の考えをその理由とともに友達にはっきりと伝えることができる。 (表現・技能)
- 自分の役割を果たすことが自分や友達のつながりを深めるとともに学級の向上につながる事を理解できる。 (知識・理解)

#### 5 指導計画

##### (1) 事前

児童の活動	教師の指導 ◎自己価値力を育成する手立て	日時
1 学級についてのアンケートを行う。	○ 学級目標に向けて、子どもたちが学級のよさややまだ足りないところについて実態を把握する。	10月11日 朝タイム
2 自然教室についてのアンケートを行う。	○ 楽しみにしていることや不安なことなどについて実態を把握する。	10月18日 朝タイム
3 学級活動(2)「楽しい自然教室に向けて」に取り組む。 (1) 楽しみなこと、不安や悩みをまとめたものを発表し、解決方法について考える。 (2) 自然教室でのクラスのめあてを考える。 (3) 自然教室をよりよいものにするために、係ごとにプロジェクトを立ち上げる。	○ 自然教室に対し、楽しみなこと、不安なことを共有できるようにまとめておく。 ◎ 学級目標の伸びているところ、まだ足りないところを考え、よりよい学級を目指すために、クラス目標を考えるさせる。 ○ 係りの役割から、どのようなことに取り組んでいきたいか考えさせる。	10月30日 6校時
4 係ごとに6年生や先生にインタビューをする。	○ プロジェクトにそった内容をインタビューさせる。	10月26日 ～ 10月31日
5 係ごとにパワーアッププロジェクトを考える。	◎ プロジェクトをわかりやすく伝えるために、目的や場面、手立て、効果に視点をしぼって考えさせる。その際、グループで疑似体験をさせるなどして手立てや効果について確かめたり見直したりして原案を考えるようにする。	11月1日 ～ 11月6日

(2) 事中

① ねらい

○学級生活を向上させるために、プロジェクトの内容をよりよいものにしようと考えを述べている。

(思考・判断)

○自分の考えと相手の考えを比較しながら、最後まではっきりと話すことができる。(表現・技能)

② 活動計画

児童の活動	教師の指導 ②自己価値力を育成する手立て
1 はじめの言葉 2 司会グループの紹介 3 話合いの進め方の確認 ○ 議題	
○ 議題	自然教室をパワーアップするためのプロジェクトをよりよくしよう。
○ 提案理由	自然教室をパワーアップしたものにするため、今あるプロジェクトをみんなのアイデアでよりよいものにしたいから。
○ 話合いのめあて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然教室がパワーアップするプロジェクトがよりよいものになっているか意識しながら話し合おう。</li> <li>・ 友達の意見のいいところを取り入れながら考えをつくろう。</li> </ul>
4 先生の話	○ 学級目標にもつながるよう意識付けする。
5 話合い	◎ 話がそれずに自分の考えを的確に述べられるようにするために場面ごとの話形を提示する。
○ 提案タイム (各係原案発表)	
○ 質問タイム	○ 視点を明確にさせるために、目的・場面・具体的な方法・予想される効果にしぼって黒板に書かせておく。
○ 交流タイム (原案にアドバイス)	◎ 原案のプロジェクトがよりよい考えへと高められるために、出された意見をつなぎながら話し合うことを意識させる。
○ 整理タイム (修正)	
○ 決定タイム (修正箇所報告)	◎ 友達のアドバイスによってプロジェクトを見直すことができたことを伝えるために、「○○さんの△△という意見から～」などと話すようにさせる。
6 話合いのふり返り	
7 先生の話	○ 昨年の自然教室の児童の感想文を紹介し、実践に向けての意欲を高める。
8 終わりの言葉	

(3) 事後

児童の活動	教師の指導 ㊟自己価値力を育成する手立て	日時
1 係ごとにプロジェクトに向けて、分担を確認し、準備をする。	㊟ 自分の役割を責任を持ってやれるように、プロジェクト内容や計画を掲示しておく。	11月9日
2 自然教室中は、一日の振り返りを行う際に、プロジェクトの振り返りもする。	○ 自分自身のふり返りの他に、友達のよかったところも書き込めるようなふり返りノートを用意する。 ○ 施設の廊下など誰もがみれる場所にプロジェクトを掲示しておき、実践できたプロジェクトにシールを貼るようにする。	11月20日 ～ 11月22日
3 自然教室後、自然教室の活動をふり返り、プロジェクト達成の話合いを行う。 (1) 自己評価 (2) 相互評価	○ 自分のよさや成長したところを再認識するために、友達の目で見あい、友達同士で手紙を渡しあうようにする。	11月下旬

6 評価

- 話合いに向けて自分の考えを明らかにし、めあてや計画に沿って、友達と協力しながら、活動を実践していこうとしていたか。 (関心・意欲・態度)
  - 学級生活を向上させる内容を考え、友達の考えを聞きながらよりよいものにつくりあげることができたか。 (思考・判断)
  - 自分の考えをその理由とともに友達にはっきりと伝えることができたか。 (表現・技能)
- 自分の役割を果たすことが自分や友達のつながりを深めるとともに学級の向上につながる事を理解できたか。 (知識・理解)